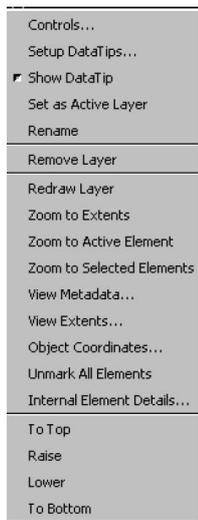


レイヤの右マウスボタン操作

表示処理は、〈表示マネージャ〉ウィンドウと、表示ウィンドウの凡例表示に右マウスボタンメニュー (Right Mouse Button Menus: RMBM) を備えています。TNT2006:72 の表示処理の再設計によって、それまでアイコンやメニューの上で左マウスボタンを使って利用していた多くの機能が、〈表示マネージャ〉中の右マウスボタンメニューに統一されました。このテクニカルガイドは、〈表示マネージャ〉中のレイヤアイコンや名前の上で右クリックした時に利用できるオプションについて解説しています。グループやレイアウトの右ボタンメニューについては他のテクニカルガイドで説明しています。『空間データの表示: 表示マネージャでのマウス操作 (Spatial Display: Mouse Actions in the Display Manager)』と題するテクニカルガイドでは、左クリックの操作と、マウスカーソルを置いたときの挙動について説明しています。

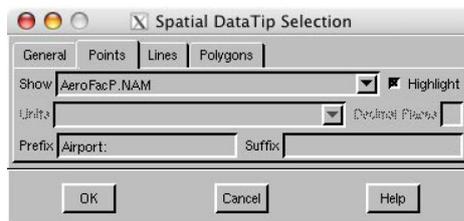


メニューにはオブジェクトタイプに固有の場合があります。左のメニューは図形オブジェクト (ベクタ、シェイプ、CAD、TIN) に対するものです。このページの裏面には、8ビットのカラーマップ付きラスターオブジェクトに対するメニューを示しています。メニューの下の方にはラスターだけにあるメニューが追加されています。メニューの上の方には [等倍表示 (最も詳細) (Zoom Raster One to One)] が追加されています。



コントロール (Controls) レイヤの〈レイヤコントロール〉ウィンドウを開きます。スケッチレイヤはジオツールボックスから操作するので、このオプションがありません。

データティップの設定 (Setup DataTips) 〈データティップの設定 (DataTip Settings)〉ウィンドウが開き、データティップとして表示するテーブルとフィールドを選択したり、前付け文字や後付け文字を付けることができます。[一般 (General)] タブでは、データティップが表示されるまでマウスを置く時間 (秒) や、データティップの表示が同じままでマウスを移動できる距離を設定できます。データティップは〈レイヤコントロール〉ウィンドウでも設定できます。浮動小数点ラスタのように、レイヤのタイプによってはこのオプションがないものもあります。



データティップの表示 (Show Data Tip) このトグルを使うと、右マウスボタンメニュー (RMBM) からデータティップをオン / オフできます。

アクティブレイヤとしてセット (Set as Active Layer) 対象のレイヤをアクティブレイヤにして、〈表示マネージャ〉リスト中のレイヤ名を太字にします。そのレイヤを含む表示グループやレイアウトもアクティブになり、その後追加するレイヤも同じグループに入ります。〈表示マネージャ〉リストのレイヤ名を左クリックしてもアクティブにできます。

幾何図形レイヤの
右マウスボタンメニュー

名前の変更 (Rename) 〈表示マネージャ〉リストや表示ウィンドウの凡例表示の中のレイヤ名を一時的に変えます。グループやレイアウトの一部としてそのレイヤを保存しない限り、この変更は現在の表示セッションだけで有効です。オブジェクトに保存されている名前は変わりません。

レイヤを消去 (Remove Layer) 〈表示マネージャ〉のリストからレイヤを消去します。再描画で表示ウィンドウからも消えます。

レイヤの再描画 (Redraw Layer) 対象のレイヤだけを再描画します。グループやレイアウト中の他のレイヤは再描画されません。

範囲を拡大 (Zoom to Extents) 右クリックしたレイヤの範囲に表示をズームします。

等倍表示 (最も詳細) (Zoom Raster One to One) ラスタレイヤのみに現れます。ラスターの1セルが画面の1ドットになるようにラスターレイヤを表示します。ラスターレイヤを最大解像度で素早く表示できるので便利です。異なる解像度のラスターが複数表示されている場合、[等倍表示] を使うのと異なるスケールでそのレイヤを再描画します。[等倍表示] でも、ラスターのセルと画面のドットは1対1になりますが、それは描画順が一番下のラスター、または〈レイヤコントロール〉ウィンドウで [等倍表示を優先 (Preferred for 1X zoom)] 設定をしているラスター中で一番下のものに対して適用されます。

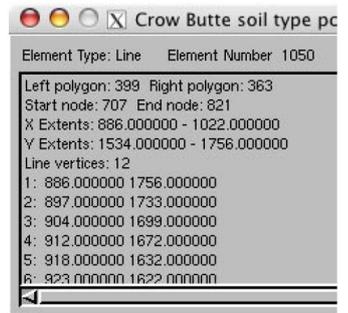
メタデータの表示 (View Metadata) 〈メタデータビューワ / エディタ (Metadata Viewer and Editor)〉ウィンドウが開いて、オブジェクトに関連づけられたメタデータを見たり、許可されていれば変更することもできます。

範囲の表示 (View Extents) 〈オブジェクトの範囲 (Object Extents)〉ウィンドウが開きます。右クリックしたレイヤの座標参照系が表示されます。必要なら変更できます。緯度 / 経度で範囲を見る場合は、表示形式を選択できます。(ピンマップレイヤは除く。)

オブジェクトの座標情報 (Object Coordinates) 〈オブジェクトの座標情報 (Object Coordinates)〉ウィンドウが開き、カーソルが表示キャンバスの上にある時、その位置の X と Y 座標 (幾何図形) やラインとカラム (ラスター) を表示します。

すべての要素を選択解除 (Unmark All Elements) レイヤ中のマーク (選択) された要素をすべて選択解除します。マークされた要素がある時だけ現れます。(幾何図形レイヤのみ)

内部要素の詳細 (Internal Element Details) タイトルバーにレイヤ名と要素タイプが表示された〈内部要素の詳細 (Internal Element Details)〉ウィンドウが開きます。表示される情報は要素のタイプによって変わります。右図は、ポリゴナルトポロジーを持つベクタオブジェクト中のラインの標準的な情報です。表示ウィンドウのツールバーの [1つ前の選択 (Previous Marked)] や [次の選択 (Next Marked)] ボタンを使って、複数選択した要素を1つずつ進めながら情報を見ることができます。



一番上へ (To Top) レイヤを描画順の一番上に移動します。そのレイヤはグループ名のすぐ後に表示されます。グループにレイヤが1つしかない場合、この選択肢は現れません。選択したレイヤが既にグループの一番上にある場合、この選択肢はグレーになります。本選択肢と次の3つの選択肢は、凡例表示中でレイヤ名を対話的に選択して上下にドラッグするのと同じ効果があります。

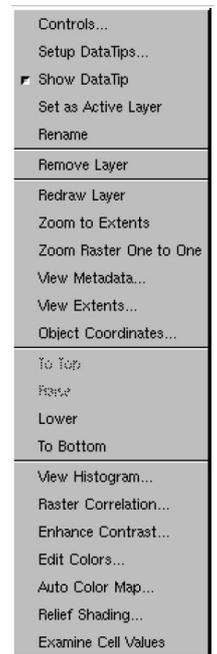
上げる (Raise) レイヤを描画順で1つ上に移動します。表示しているレイヤが1つしかない場合は、この選択肢は現れません。選択したレイヤが既にグループの一番上にある場合、この選択肢はグレーになります。

下げる (Lower) レイヤを描画順で1つ下に移動します。グループにレイヤが1つしかない場合、この選択肢は現れません。選択したレイヤが既にグループの一番下にある場合、この選択肢はグレーになります。

一番下へ (To Bottom) レイヤを描画順の一番下に移動します。グループにレイヤが1つしかない場合、この選択肢は現れません。選択したレイヤが既にグループの一番下にある場合、この選択肢はグレーになります。

ラスタレイヤのみにあるメニュー

ラスタレイヤの右マウスボタンメニューの下の方にあるメニュー項目は、ラスタレイヤのタイプによって変わります。ラスタレイヤに共通のメニューは、[ヒストグラムの表示 (View Histogram)]、[ラスタの相関 (Raster Correlation)]、[セル値のチェック (Examine Cell Values)] です。また、全てのラスタレイヤに、[カラーバランス (Color Balance)] と [色の修正 (Edit Colors)] のどちらかまたは両方の選択肢があります。また、コンポジットカラーラスタオブジェクト以外のラスタレイヤには、[コントラスト強調 (Enhance Contrast)] という選択肢があります。シングル8ビットラスタレイヤにのみ、[カラーマップの自動生成 (Auto Color Map)] という選択肢があります。[等倍表示 (最も詳細)] は、他の拡大・縮小の選択肢とともにメニューの上の方に含まれており、全ラスタレイヤにあります。



ヒストグラムの表示 (View Histogram) 〈ラスタヒストグラム (Raster Histogram)〉ウィンドウが開き、ヒストグラムや統計値が表示されます。

ラスタの相関 (Raster Correlation) 〈ラスタ相関 (Raster Correlation)〉ウィンドウが開き、2つのラスタの相関を見ることができます。相関を見ることにより、マルチスペクトルや多時期ラスタ間の類似度を視覚的に認識できます。

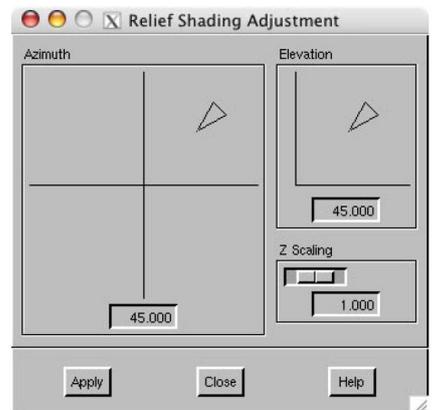
コントラスト強調 (Enhance Contrast) 〈ラスタコントラスト強調 (Raster Contrast Enhancement)〉ウィンドウが開きます。入力と出力の範囲をグラフィカルまたは数値的に変えたり、標準タイプから選んだり、ユーザー独自のコントラスト曲線を描けます。(16ビットと24ビットのコンポジットカラーラスタオブジェクトにはありません。)

色の修正 (Edit Colors) 〈カラーパレットエディタ (Color Palette Editor)〉が開き、ラスタの表示に適用されるカラーマップを調整します。(コンポジットカラーとマルチオブジェクトのラスタにはありません。)

ラスタレイヤの
右マウスボタンメニュー

カラーマップの自動生成 (Auto Color Map) 〈自動カラーマップ (Auto Color Map)〉ウィンドウが開きます。選択した参照ラスタの対応するセルの平均値に基づき新規のカラーパレットを作ります。(8ビットのラスタレイヤのみ)

陰影図 (レリーフシェーディング) (Relief Shading) 〈陰影図の調整 (Relief Shading Adjustment)〉ウィンドウが開き、太陽の方角、標高、Zスケールを対話的に調節できます。(コンポジットカラー、複素数、マルチオブジェクトのラスタレイヤにはありません。)



セル値のチェック (Examine Cell Values) 〈ラスタのDN値を確認 (Raster Inspection)〉ウィンドウが開き、画面上のラスタのセル値をチェックできます。

[表示 / 非表示] チェックボックス上の右マウスボタンメニュー (Hide / Show Checkbox RMBM) 1つの表示マネージャで複数の表示ウィンドウを開いていたり、

[ビューインビュー (レイヤの穴あけ)] ツールを使っている時、〈表示マネージャ〉中のレイヤの [表示 / 非表示 (Hide / Show)] チェックボックスの上で右クリックすると、表示したいレイヤを選ぶことができます。開いている表示ウィンドウや表示ウィンドウ中の [ビューインビュー] に対する選択肢とそれらの表示 / 非表示を切り替えるトグルが現れます。[ビューインビュー] がオンの場合、描いた四角形の中にレイヤが表示されます。[ビューインビュー] の表示 / 非表示は、凡例表示からも操作できます。また、印刷用 (ページ) レイアウトの場合、[ハードコピー (Hardcopy)] トグルボタンで各レイヤを印刷するかどうか制御できます。

